

## 第4回国史跡龍岡城跡保存管理計画策定委員会 会議録

日 時 平成24年10月12日（金）  
午後1時30分から3時40分  
場 所 あいとびあ白田多目的室2

出欠状況

出席委員 6名

欠席委員 2名

傍聴者 なし

### 1 開会

### 2 あいさつ

教育長

会長

### 3 協議（質疑、意見等要約）

事務局：保存管理の現状の問題を大きく4つに分けて提示した。保存管理と維持管理の方法は問題が起きた時どのようにするか5つに分けて記載し、体制組織図を記載した。個々の問題について一元化して把握する。

保存管理の取り扱いの基準を一覧にして、現状変更の手続きについて示し、文化財保護法は資料編に抜粋を添付した。平成19年から24年度に実施した主な工事等と、最重要の基本方針及び早急に実施する計画を記載した。各小委員会を立ち上げ、順次方針を決定する。また、周辺の保全、公有化と追加指定検討や、観光資産としての活用について記載し、保存管理計画の位置付けについて図解した。

委員：市民の皆さんへの具体的な活用についてはどのように考えているか。

事務局：観光資産としての活用について、関連部局と今後協議する方向性を示している。

委員：標記中、「原古墳群」は幸神古墳群、外九間古墳群、中原古墳群を総称するものでよいか。

委員：それでよいと思う。

事務局：前回の会議で提示された、サクラ・コウホネの植生について、文化財保護審議委員会で文化財パトールを行い、保存管理の取り扱い基準の中に加えた。コウホネの適正管理等、専門の審議委員から指導を受けた。

事務局：龍岡城の概要等、新しく説明を加えたので、ご意見をお願いしたい。

アドバイザー：本質的な問題点に田口小学校が加わっているのはどうか。史跡とその他のものは分け、史跡の活用についての項目を加えるべきだ。田口小学校は招魂社とともに別

枠にするべきである。また、「協議」の表記は、具体的に記載したほうがよい。

事務局：表記の方法について検討する。

アドバイザー：非常に不足部が多い保存管理計画である。保存管理、整備活用、体制の内容がそれぞれ不十分である。基本的な問題として、指定範囲が明らかでない。昭和9年指定時の官報告示と照合し、確認する。また、市の概要部分が不足している。補助事業のため半年で仕上げなければならないため、不十分な部分は国、県、事務局で修正することについて、委員の皆さんに了承いただきたい。小学校について、サクラ、堀の水の管理について等記載がない。想定される問題点については文書化すべきだ。また、委員会終了後にマニュアルを作成するのでは遅くないか。地元区での合意形成なども必要であり、大きな方向性を示してほしい。保存管理計画に記載があることで、国の対応も変わるため、「追加指定」の検討についても計画を示す必要がある。なお、「現状変更の取り扱い基準」は、計画の大きな目的であるため、具体的な事例を表記しておくべきである。

事務局：指摘された指定範囲の確認について至急対応する。今後、会長と相談のうえ、国・県と協議し、委員の皆さんには資料を送付し、内容変更について個別に相談したい。

田口小学校についてはデリケートな問題なので、あいまいな記述になっていることについてご理解いただきたい。

アドバイザー：地元委員にお尋ねするが、小学校について地元の考え方はどうか。

委員：約30件の転入者のうち、小学校に観光客が来るのはおかしいという考えもある。

委員：小学校の問題と、この計画は離して考えてほしい。

アドバイザー：長期的な整備の中に、史跡にとってどうすべきかという観点から、小学校の問題については入れるべきだ。

事務局：将来の理想を書ける限界もある。

アドバイザー：理想を記載していただきたい。

委員：五稜郭の外に学校を建設することに地元が大反対し、文化庁に無理をお願いし、現在の小学校を建設した経過がある。情勢が変わり、いずれ小学校の統合も想定されているが、五稜郭を整備するために学校を移すということでは納得されない。「学校が移る場合があれば」という表現ならば入れられるかと思う。

アドバイザー：デリケートな問題だが、全く触れないというわけにはいかない。皆さんで検討していただきたい。

事務局：表現は各委員に確認していただく。

アドバイザー：他の史跡では同窓会で学校移転に反対するなどのケースもある。地元の理解を得るには苦労があると思う。他の事例も参考にしてほしい。

委員：「本領」と「本拠」の表記を統一し、南牧村読みは「みなみまき」を「なんもく」、千曲川「日本一の河川」を「日本一長い河川」、英田地畑読み「えいたちばた」を「えたちばた」、宮東読み「みやとう」を「みやひがし」、大工原読み「だいくばら」を「だいくはら」に、また、「正平13年」とあるが北朝年号「延文3年」がよいのではないかと。文明年

間「1470年から1486年」とあるが「1469年から1487年」、事代読み「ころしろ」を「ことしろ」、「田口藩」を「田野口藩」とすべきではないか。なお、図面は尖っているが、実際は角が丸くなっている。竣工図、計画図がある。

アドバイザー：元の図面があるなら入れたらどうか。図面中「現存する建物」の表示は抜いたほうがよいのではないか。

委員：図面は堀内家子孫が持っている。

アドバイザー：それを添付したほうがよいのではないか。

委員：実態がつかめない計画だ。歴史的概要をふくらませてほしい。

事務局：修正した計画を送付するので、個別に意見をいただきたい。

アドバイザー：今後のスケジュールはどうなっているか。

事務局：修正した資料を送付のうえ個別に意見聴取し、県・文化庁の両アドバイザーに相談、業選に1か月、製本に1か月かかるため、年内に内容の練り上げを予定する。字句の訂正等協力をお願いしたい。年明けに印刷製本の予定である。

アドバイザー：空白頁があるが、内容はどうするのか。

事務局：保存会組織図が入る。

アドバイザー：章立てをした方がよい。頁立てについても相談させてもらう。

事務局：皆さんに集まっていただくのは最後だが、これからもよろしくをお願いしたい。

(現地視察)